



「子どもエンパワーメント委員会」では、学校に行けない子どもに読み書きを教える取り組みもしている

子どもエンパワーメント委員会」では、学校に行けない子どもに読み書きを教える取り組みもしている

への差別なども低就学率の原因となっている。また、暗記一辺倒の教授法や、少数民族が多い地域であってもネパール語のみで授業を行っていることが、教育の質を低下させている。

質の高い教育とは

すべての子どもが質の高い教育を受けるには、子ども、教員、親、地域住民などさまざまな関係者が協力して取り組むことが大切。そう考えるSCJは地元のNGOとともに、関係者の組織づくりと子ども自身の参加を重視。「子ども」「女性」「先住民」「青年」や教員を含む「学校運営委員会」などのグループを組織し、話し合う場を設けた。

SCJの現地駐在員（当時）の定松栄一さんが村の子どもグループ「子どもエンパワーメント委員会」のメンバーに「質の高い教育とは？」と聞くと、「先生の教えることを児童がきちんと理解できて、知識やスキルを活用できること」と話したそうだ。



学校運営委員会が学校改善計画を作成できるようになるための研修。計画には、児童数や学校の状況、問題点、予算などを記し、郡の教育局に提出する

子どもたちによると、それぞれの責任とは「子どもは欠かさず出席すること、授業に集中すること、分らないことは質問すること。先生はきちんと出勤すること、児童に分かりやすい授業を行うこと。親は子どもを学校に行かせ、最低限の文房具を用意すること、家の手伝いより宿題を優先させること」。「こうして子ども自身が考えたように、関係者みんなが教育の重要性を認識し、自分たちの権利を主張するだけではない」と話したそうだ。

という意見が上がった。また、「教員と児童の関係は医者と患者の関係に似ていて、診療しても患者が治らなければ、それは良い医者ではない」というのと同じように、教員が教えたことを児童が理解し、知識を使えるようにならなければ、それは良い教員ではない。質の高い教育を受けるには、関係者それぞれが責任を果たすべき」と話したそうだ。



村人と定松さん。村で活動するに当たって、SCJは地元のNGOを通じてまず子どもたちが学校に通っているかどうかを学校と家庭の双方に聞いて回った

く、各自の役割・責任を果たすことが教育を広める「第一歩」とSCJの小荒井理恵さんも話す。プロジェクト2年目に入った現在は、グループでの議論をより深め、教育の質の向上を達成するために各自がどう責任を果たすかに重点を置きながら活動を進めている。さらに、議論から出てきた課題を各校で作られる学校改善計画にいかにか反映させていくかが、今後の課題となっている。

ネパールは、山岳地域、丘陵部、平野部と地形的に変化に富んでいるばかりか、多民族国家でもあるため、地域や学校によって抱える問題は多様で求められる支援は異なる。そうした特徴があるからこそ、SCJとJICAのコミュニティ単位での地道な取り組みは、ネパールの未来を担う子どもたちに明るい明日を運んでくれる「希望」となるに違いない。



村の子どもたち。ネパールの初等教育は5年制から8年制に今年から変更される予定

子どもたちに希望を運ぶ教育を

低就学率とともに、教員の指導力不足など教育の質の低下が問題となっているネパール。複雑な地形や多文化社会にある中で、より効果的に教育の質を向上させようと、JICAは（社）セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンとともに、コミュニティをベースとした支援を行っている。



1クラスに100人が学ぶ

ネパールでは子どもの5人に1人が小学校に通っていない。家が貧しく家事を手伝わなければならないなかったり、親が教育の大切さを理解していなかったり、通学できる範囲に学校がなかったりと、その理由はさまざまだ。

こうした状況を改善するため、ネパール政府は国際社会の支援のもとで就学率を向上させる取り組みを展開。日本も専門家やボランティアを派遣し、8000以上の教室を整備するなど、の協力を行ってきた。これにより、小学1年生の就学率の向上につながっている。ところが、それでもまだ教員や教室の数が足りず、1クラスに100人近い児童が学ぶ地域も依然多い。結果として、教育の質は低下し、子どもに十分な学力が身に付かないばかりか、2年生に進級できず留年したり、中途退学する子どもが増え続けてしまった。

そこでネパール政府は、就学率の向上に加え、教育の質を高めることや、地方分権の進展に合わせて地域ごとに学校運営に取り組んでいくことを新たな目標に据え、取り組みを始めた。JICAもそれに協力するため、政策レベルから草の根レベルまで、幅広く活動を行っている。草の根レベルでの支援の一つが、昨年からの（社）セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン（SCJ）と連携して実施している「コミュニティへの働きかけを通じた公立小学校教育の質の改善」プロジェクト。対象地域である平野部のマホタリ郡は、全75郡中、就学率や識字率などが下から2番目という状況だ。1クラスの児童数が多すぎることに加え、先生が学校にきちんと出勤しないことや、校内での体罰、女子・低カースト

そこでネパール政府は、就学率の向上に加え、教育の質を高めることや、地方分権の進展に合わせて地域ごとに学校運営に取り組んでいくことを新たな目標に据え、取り組みを始めた。JICAもそれに協力するため、政策レベルから草の根レベルまで、幅広く活動を行っている。草の根レベルでの支援の一つが、昨年からの（社）セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン（SCJ）と連携して実施している「コミュニティへの働きかけを通じた公立小学校教育の質の改善」プロジェクト。対象地域である平野部のマホタリ郡は、全75郡中、就学率や識字率などが下から2番目という状況だ。1クラスの児童数が多すぎることに加え、先生が学校にきちんと出勤しないことや、校内での体罰、女子・低カースト